

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

独文学専攻

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

独文学専攻では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、修士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、修士（文学）の学位を与える。

1. ドイツ語学研究ならびにドイツ文学研究の分野において、研究領域全般に関する専門知識を身につけ、外国語（ドイツ語）を使用して専門的なリサーチを展開し、その成果を日本語およびドイツ語で発表できる。
2. ドイツ語学研究ならびにドイツ文学研究、あるいは関連分野の研究を内容として日本語あるいはドイツ語で修士論文を執筆して審査に合格し、さらに、修士論文のテーマに関連する領域については包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
3. ドイツ語を通じて異文化の歴史的、文化的特性を理解し、他者と交流を持ち、重要な問題を認識し、それを解決していくための議論や実践に資するリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として国際社会に貢献できる。

【カリキュラム・ポリシー】

独文学専攻では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. ドイツ語学、ドイツ文学の領域において、ドイツ語学、中世ドイツ文学、近代ドイツ文学、現代ドイツ文学を対象とした講義演習科目群を設置するとともに、ドイツ文化論、ヨーロッパ中世思想史、ゲーテ研究、ドイツ演劇、ドイツ思想、メディア学、文化学、スポーツ文芸等の関連科目も開講することで、研究を展開するために必要な専門知識、リサーチ能力、一次資料分析能力、思考力および議論構成力を養成する。またこれらの科目の一部をドイツ語で開講することで、ドイツ語によるプレゼンテーション能力を養う。修士課程の全在学期間を通じて履修可能な、母語ならびに外国語による少人数演習科目を設置し、文学研究科全体のカリキュラムの基盤とする。

2. 修士論文の執筆を可能とするため、文学系、文化系、言語学系、哲学・思想系の各テキストの読解と討論や実践的なドイツ語口語演習を通し、学問的思考法とドイツ語による論述力を養い、指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行う。修士論文審査については、論文題目および主査（原則として指導教員）および2名の副査（専任教員）で構成される審査団の文学研究科委員会による承認、審査団による論文審査、審査団および関連教員による口頭試問を経て、最終的な審査結果を文学研究科委員会で審議、承認する。
3. 異なる環境を通じて高度な異文化リテラシーを身につけるために、文学研究科や慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学院への修士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。海外の大学院への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って修了要件に含めることを認める。また、文学研究科独自の支援制度により留学を援助する。
4. 海外への留学をはじめとし、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講する。
5. 領域横断的な研究を可能とするために、慶應義塾大学大学院の他研究科および付属研究所の設置科目、さらに文学研究科と提携関係にある他大学院の設置科目を修了要件として履修することを、単位数を限って認める。

【アドミッション・ポリシー】

独文学専攻修士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 卒業論文執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深め、ドイツ語学とドイツ文学の領域全般についての基礎知識を有している。
2. 大学院において、何をどのような方法で研究したいのかという研究計画について自ら考え、日本語ならびにドイツ語でまとめることができる。
3. ドイツ語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる基礎的な読解力、学術的内容をドイツ語で論じることができる基礎的なアカデミックなライティングの能力を身につけている。
4. 研究資料を講読するための基礎的な第2外国語の能力を有している。
5. 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。